

豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク. 21の活動について

佐久地方事務所 林産係 ○ おおくさ もとこ 大草 素子

要 旨

「豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク21」は、全国の都道府県職員のうち、女性の林業技術者と賛助会員で組織されている会であり、活動は全国区で取り組まれています。

設立から8年間の取組みについて報告します。

はじめに

私達レディースネットワーク.21は、「豊かな森林づくりに向けてのアイデアの発信基地」を活動目標として、平成5年3月、全国の都道府県女性林業技術職員136名をもってスタートし、今年で8年目を迎えました。

かつて、男性の守備範囲であった林業の世界への女性の進出は、目覚ましいものがあります。

森林.林業を目指す粘り強く明るい、女性のウーマンパワーは確実に育っていると思います。このような背景の中で、平成12年度現在、会員は480名を超えるまでになりました。

なお、長野県の会員数は現在15名となっています。

1 会の活動について

年間活動として、毎年全国女性森林フォーラムを各地で開催、また、林野庁主催で東京都代々木公園で開催される「森林の市」や、森林.林業就業者フェアとして開催された「森林へいこうよ全国フェア2001」等の林業関係のイベントへの参加など、情報を発信できる場への活動を行っています。

また、緑と水の森林基金の助成金により、平成6年に「山村活性化の鍵を握る女性の役割調査」、平成8年には「山の仕事着イメージアップ事業」、翌9年にはこの成果を元にした「森林作業着モニタリング事業」を実施しました。

現在は四季様々な森林の移り変わりを子供達に伝えることのできる、森林教室プログラムの作成と実践に取り組むなど、様々な事業を展開しています。

2 主な活動の詳細

(1) 全国女性森林フォーラム

全国女性森林フォーラムは、会員相互の情報交換と、会の目的を達成するには、私達女性が具体的にどのような行動を起こすべきかを話し合うため、年一回開催されています。(写真1)

高知県、福井県をはじめ、南は宮崎県、北は北海道と、これまで各地域持ち回りで開催されました。

フォーラムでは、地域の特色ある林業や、地域興しに大きく貢献し、地域に根付いた活動などを研修として見学しています。また、分科会等では、様々なテーマに沿ってディスカッションが行われ、



写真-1

毎回エネルギーな討論が繰り広げられています。

(2) 山の仕事着について

発足当時から、男性用の作業着では女性には動きにくく不便が多いという声が多く、この声を元に、平成8年「山の仕事着イメージアップ事業」、翌9年には「森林作業着モニタリング事業」を実施しました。また、この間に、森林の市等での山の仕事着コンテストを開催し、広くPRを行いました。

1) 山の仕事着コンテスト (写真-2)

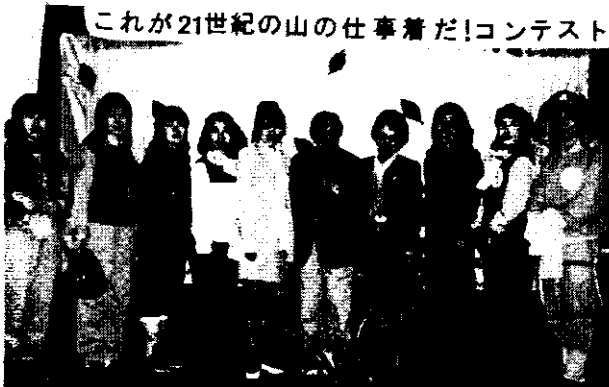


写真-2

平成8年の6月、機能的でかつファッション性を備えているという条件を付けて仕事着のデザインを募集したところ、全国から475点もの応募がありました。その中から選考に残った12作品を実際に形にした上でコンテストを行いました。森林、林業に直接関わりのない多くの人たちからもデザインの応募があり、森林、林業について関心を寄せて頂く良い機会となりました。(写真中央：デザイナー 石津謙介氏)

2) 森林作業着モニタリング事業

コンテストで上位入賞した作品をもとに、モニター用の作業服を2パターン作成し、20名に着用して頂いたところ、Aタイプ(写真-3)は、腰を冷えから守る裾の長さが逆に作業にはじゃまになること、男性側からは「演劇の衣装のようだ」との意見もありました。

またBタイプ(写真-4)は膝廻りが立体的裁断で曲げ伸ばししやすいこと、ベストが赤く山の中では目立ってよいなどが意見としてあがりました。この声をもとに改良し、山の仕事着が完成しました。



写真-3 (Aタイプ)

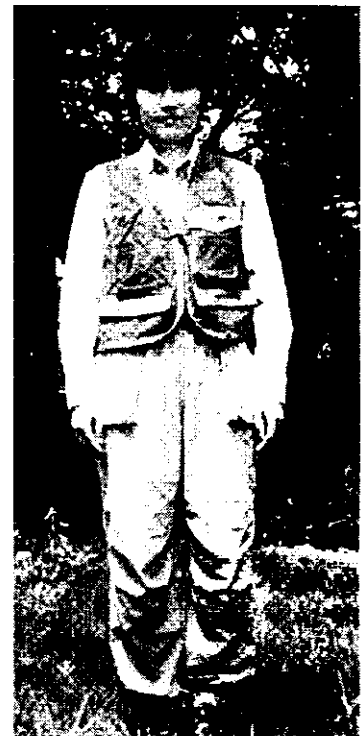


写真-4 (Bタイプ)

3) 山の仕事着完成

女性、男性用それぞれで、ポケットの位置、カフス、ゆとり幅などの工夫がされており、素材もリサイクル可能なナイロン6という繊維を使用しています。ジャケット、ズボン、シャツ、ベストの4

点を商品化し、カタログ販売を開始しましたところ、大変好評を得ることが出来ました。(写真-5)

特に赤いベストは、背中側がメッシュになっており、夏に蒸れにくいこと、赤い色がイベント時の林業スタッフの目印として、一般参加者からもわかりやすく、役に立つなどの感想も寄せられました。

最近では各都道府県単位や林研グループでの活用も増えています。



夏



冬

写真-5

(3) 全国森林教室支援事業

平成11年度には、「全国森林教室支援事業」を行いました。未来を担う子供達に、森林のすばらしさ、多様さを知り、森林を慈しんでもらう心を持って欲しいと考え、LN21のネットワークをフル活用して実施した事業です。

この事業は、ドングリや葉など山の素材が詰まった箱に「森のふれあい玉手箱」という名前をつけ、この玉手箱の利用方法により森林教室を2つのタイプに分けて実施しました。

1) お互いに玉手箱を贈りあう森林教室のタイプ

宮崎県と北海道の開催となり、それぞれの小学校同士が、「森の玉手箱」に入れる自然素材を地元から集めるときと、相手の小学校から送られてきた「森の玉手箱」を開けて素材を活用するとき、それぞれ2回の森林教室開催となりました。

この、LN21による橋渡しが縁で、平成12年度も同じ小学校で交流が交わされ、今度は「複数の地域から山の素材を玉手箱として受け取るタイプ」として森林教室を開催しました。

2) 複数の地域から山の素材を玉手箱として受け取るタイプ

森林教室のテーマに必用な自然の素材を開催地から全国に発信し、それを各地のLN21会員が採集して「森の玉手箱」として贈るというものです。平成11年には、全国で6カ所実施され、全国から各開催地へ贈られた玉手箱はのべ30都道府県からののびりました。



写真-6

この森林教室により、地元の素材とほかの地域の素材の違いをリアルタイムに見ることができ、日本という国の自然環境の多様さが楽しみながら学べることが可能となりました。またこれを機会に地元の自然に目が向けられるようになったとの報告もありました。

長野県からも、「どんぐりころころ」の歌にゆかりのある北海道の創成小学校へ、LN21 会員とその他の林務課職員が集めた様々な種類のどんぐりが贈られ、見たことのないシイ類のどんぐりに驚きの声があがったと報告がありました。(写真-6)

(4) 調査事業について

1) 山村活性化の鍵を握る女性の役割調査 (平成6年度)

これまで経済効率優先の社会体制に取り込まれてこなかった農山村の女性達は、いわば自由な立場で行動できる無限の可能性を秘めています。具体的な動機、たとえば子供であったり地域といったものに対する直接的な行動をすぐにでも起こせる女性であるからこそ、その成果はストレートに地域社会に繁栄されます。

このような考えから、各地の農山村の女性の役割実態や動向について調査を行ったところ、山村を支えているのは男性だけではないこと、今まで表舞台に出てこなかった女性達は情報交換を通じて生き生きと活躍できること、女性が元気であれば総じて周囲の人々・男性にも活気が出てくることが明らかになりました。

2) 森林・林業に関するアンケート調査 (平成11年度)

森林の多様な営みや林業の重要性について正しく伝え理解してもらう、森林教室のプログラムづくりに役立つことを目的に、LN21 の活動として独自性が見いだせればと、女性を対象に実施しました。

調査は、一般女性 (309名: 全国からランダムに抽出)、林業に従事している女性 (82名)、そして森の市に参加していた「少し森林や林業に興味のある女性」(59名) に対し行いました。

結果、森林や林業に対する姿勢や感じ方、知識に、3者の間で差が認められるものの、森林の大切さやその役割の重要性、子供達への森林教育活動の必要性については9割以上の女性達が認識していることが分かりました。(表-1)

また、林業体験について聞いたところ、6割の女性が体験してみたいと答えており、自然観察会みの森林教室ではなく、林業教育プログラムといった林業サイドからのアプローチも求められているのではないかと感じました。

表-1

調査事業 (抜粋・要約)		5 どのようなテーマの森林教室に興味がありますか。	
1 森林についてのイメージは？ (複数回答可)		① 森林学習	23.0 %
①	明るい 11.6 %	② 自然観察	56.1
②	暗い 8.8	③ 林業体験	16.6
③	気持ちいい 71.0	④ 工作・クラフト	25.4
④	恐ろしい 2.8	⑤ ネイチャーゲーム	14.9
⑤	豊か 67.1	⑥ 野外実習 (キャンプ)	41.7
⑥	荒れている 16.9	⑦ その他	2.1
⑦	動植物の種類が豊富 31.0		
⑧	その他 4.5		
2 森林は大切だと思いますか。		6 林業のイメージは	
①	思う 96.7	① 明るい	9.0 %
②	思わない 0.7	② 暗い	17.7
3 子供たちにとって、幼少時の森林教室等での野外体験・経験は、必要・大切だと思いますか		③ 新しい	6.5
①	思う 87.3 %	④ 古い	11.7
②	思わない 0.9	⑤ 楽しい	17.1
③	分からない 5.8	⑥ 辛い	25.3
4 3の質問でお答えになった理由は何ですか。		⑦ 山・木	40.4
外で遊ぶ子が少ないので、外で遊ぶ楽しさを経験して欲しい、そのことで心が豊かになる。(18) 朝寝教育(11) 楽しんゆら(8) 自然の厳しさを知る(7) 聞いただけでは(室内に)いるだけでは分からない体験ができる・自分の目で見て触って感じる(7) 森林を身近に感じることで親しみを持ち受けがえのないもの・大切なものという認識が育つから(6) 自然の大きさ、ありがたさを知る(6) 木やテレビゲームの世界ではなく自分の目や手で触れることが必要だ、何かを作り出そうとする考える力を養いたい。(5) 小さい頃の印象は強く残る(4)		⑧ 木を切っている	48.3
		⑨ 木を育てている	39.5
		⑩ その他	4.7
		7 林業のどのようなことに興味がありますか。	
		① 木を切ること	11.5 %
		② 木を植えること	31.5
		③ 木を育てるための保育をすること	17.4
		④ 木を製材・加工して売ること	13.0
		⑤ 炭焼き	19.7
		⑥ その他	0.3

そして、森林教室ばかりでなく、林業関係のイベントであっても、一般の方に森林、林業を知ってもらう絶好のチャンスであること、正しい理解の為には、女性達の知りたい、学びたいという「関心」を高め、理解する場となる「機会」を多く与えることが重要であることが読みとれました。

何よりも心強いのが、林業に従事する女性達が「人々に自分の知恵や経験を教えたい」という熱い思いを持っていた事であり、これを生かす活躍の「場」が必要であること、そして、知りたい欲求と知らせたい欲求双方の橋渡し役となるのは、私達 LN21 が最適の立場にいる事がわかりました。

3 今後の展開

現在、農林水産業や山村の問題が取り上げられるとき、盛んに「山村の活性化」が使われます。

活性という言葉には、自発的なエネルギーの放出を感じます。山村においては、地域の人々が安定した生活基盤のうえで、地域産業によって経済効果をあげ、絶えず人、物資そして情報が、広くいきいきと流れている状態をいうのではないのでしょうか。

地域の活性化には、地域に生活の基盤を降ろし、感性で自由に動くことのできる女性達の元気な活躍が不可欠であることは明白です。

今後、私達 LN21 は、多くの方々、特に次世代を担う子供達や、彼らに多くの影響をもたらす母親を含めた女性たちが、林業に関心を持てるようなプログラムの開発を目指すとともに、国有林関係女性職員を含め、地域の林業女性との連携で森林教室をプロデュースするなど、豊かな森林づくりに向けて森林、林業教育に取り組んでいきたいと思えます。

おわりに

今後展開される LN21 の取組により、様々な立場の女性が、いきいきと活発に行動し、皆が明るく楽しく暮らせる山村地域の活性化が実現できるよう、これからも出来ることから始めていきたいと考えています。